

日本ユネスコエコパークネットワークとイオン環境財団の連携協定に基づき 「第1回 南アルプスユネスコエコパークフェア」を開催

3月2日（土）・3日（日）、イオンモール甲府昭和で

南アルプス自然環境保全活用連携協議会（会長 金丸 一元 山梨県南アルプス市長）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、3月2日（土）・3日（日）にイオンモール甲府昭和にて「第1回 南アルプスユネスコエコパークフェア」を開催します。

イオン環境財団は、南アルプス自然環境保全活用連携協議会を含む日本各地のユネスコエコパークが組織する、日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田 穰 宮崎県東諸県郡綾町長）と、2017年に国内初となる連携協定を締結しています。同協定は、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指し、日本のユネスコエコパークにおける3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関して連携して取り組むものです。

協定に基づく取り組みとして、今回、イオンモール甲府昭和（山梨県）においてステージイベントやワークショップ、パネル展示、南アルプスユネスコエコパークの特産品の販売などを実施し、同パークの豊かな自然と人々との関わり等をわかりやすくお伝えします。また、イオンの店舗を拠点に小中学生が環境活動などに取り組む「イオン チアーズクラブ※」と同パークが連携し、新たな学習プログラムをスタートします。学習プログラムの1回目の活動として、クラブの子どもたちは、フェアへの参加や勉強会でエコパークについて学びます。2回目の活動では、実際に南アルプスユネスコエコパークを訪れ、野外実習等を通じて生物多様性や自然との共生について学ぶ予定です。

【南アルプスユネスコエコパークフェア】

日時：3月2日（土）・3日（日）

場所：イオンモール甲府昭和（山梨県中巨摩郡昭和町飯喰1505-1）1階「さくら広場」

主催：南アルプス自然環境保全活用連携協議会
公益財団法人イオン環境財団

内容：開会セレモニー、ステージイベント、ワークショップ、パネル展示、
南アルプスユネスコエコパークの特産品販売など

【開会セレモニー】

日時：3月2日（土）14:00～15:00

場所：イオンモール甲府昭和 1階「さくら広場」

出席者：南アルプス自然環境保全活用連携協議会 会長	南アルプス市長	金丸 一元
南アルプス自然環境保全活用連携協議会 委員	北杜市長	渡辺 英子
南アルプス自然環境保全活用連携協議会 委員	早川町長	辻 一幸
南アルプスユネスコエコパーク構成市町村	韮崎市副市長	五味 秀雄
イオンリテール株式会社 南関東カンパニー	東京山梨事業部長	石河 康明
イオンモール株式会社	関東・新潟事業部長	鈴木 秀一

*セレモニーでは、イオンスタイル甲府昭和（山梨県中巨摩郡昭和町）を拠点に活動する「イオンチアーズクラブ」の子どもたちが、昨年1年間の活動をまとめた壁新聞の発表会を行います。

※イオン チアーズクラブ：公益財団法人イオンワンパーセントクラブの支援により、店舗ごとにクラブを組織し、小中学生が環境に関する学習や体験を通じて、考える力や社会的なマナー、ルールを身に付ける場をイオン各社が提供しています。全国の総合スーパー「イオン」等460店舗において、店舗の従業員のサポートのもとで活動しています。

【ご参考】

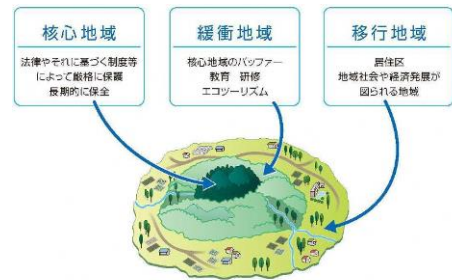
【ユネスコエコパークについて】

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域、BR：Biosphere Reserves^{※1}）は、1976年にユネスコが開始しました。世界自然遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和（自然と人間社会の共生）に重点を置いています。登録件数は122カ国686件で、日本では9件^{※2}です。

自然と人間社会の共生を目指すユネスコエコパークには、3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）があります。そしてその機能を果たすために3つの地域（核心地域、緩衝地域、移行地域）が設けられています。核心地域では、厳格に自然が保護され、核心地域保護のための緩衝地域では、教育・研修・エコツーリズムなどが行われています。移行地域は、人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域であり、環境を守りながら、循環型で持続可能な地域づくりが行われています。

※1 日本ではより親しみをもってもらうため、ユネスコエコパークと呼んでいます。

※2 「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」、「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」（2018年7月時点）



3つの地域（ゾーニング）

出典：日本ユネスコ国内委員会

日本のユネスコエコパーク



出典：日本 MAB 計画委員会

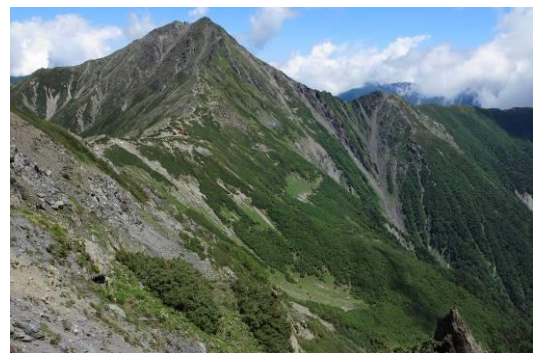
【日本ユネスコエコパークネットワークについて】

日本国内におけるユネスコエコパークの地域間連携を促進し、一つの地域では対処できない課題への対応、社会への働きかけなどを行い、ユネスコエコパークの理念に基づいた人間と生物圏とのより良い関係を築いていくことを趣旨とし、ユネスコエコパーク単位が会員として組織しているものです。

【南アルプスユネスコエコパークの特徴】

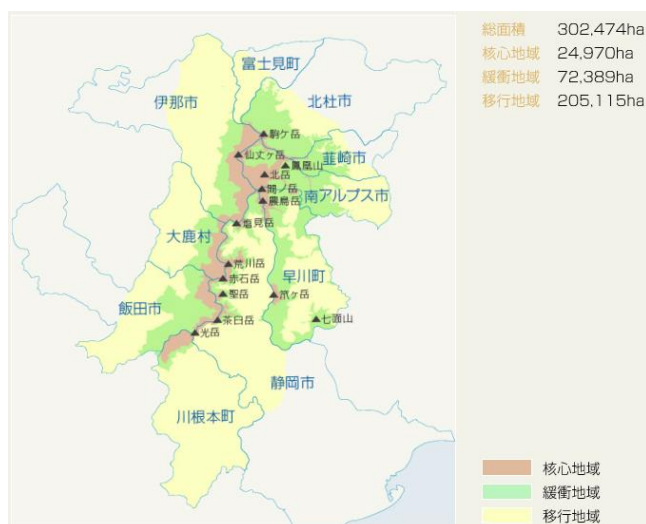
南アルプスユネスコエコパークは、2014年6月12日に、スウェーデンで開催された第26回人間と生物圏（MAB）国際調整理事会において、正式に登録承認されました。

南アルプスは3,000m峰が連なる急峻な山岳環境の中、固有種が多く生息・生育するわが国を代表する自然環境を有しています。富士川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに古来より固有の文化圏が形成され、伝統的な習慣、食文化、民俗芸能等を現代に継承してきました。



北岳

従来、南アルプスの山々によって交流が阻まれてきた3県10市町村にわたる地域が、「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念のもと、南アルプスユネスコエコパークとして結実。南アルプスの自然環境と文化を共有の財産と位置づけるとともに、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを図ることを目指しています。



南アルプスユネスコエコパークのエリア

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹活動、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,166万本（2018年2月末時点）を超えています。

※イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的としてアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2018年度は、国内では福島県南相馬市、三重県松阪市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県宜野湾市にて、海外では中国・北京市、ミャンマー・ヤンゴン、インドネシア・ジャカルタにおいて植樹活動を実施しました。



第1回 三重県松阪市植樹



第2期 インドネシア・ジャカルタ植樹（第1回）

■助成事業

[環境活動助成]

1991年より27年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行い、累計では2,846件、総額25億9,200万円となりました。2018年度は、「植樹」、「里地里山里海の保全・河川の浄化」、「環境教育」、「野生生物・絶滅危惧生物の保護」の4つに改編して実施しました。

■連携事業

[生物多様性アワード]

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設。隔年で開催し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は、第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」、2018年度は第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施しました。



第5回「生物多様性みどり賞」授賞式

[イオン環境セミナー]

国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値を共有できる教育を目的とするプログラム「イオン環境セミナー」を2016年より実施しています。2018年は、9月にインドネシア大学にて開催しました。



イオン環境セミナー（インドネシア大学）

[イオン未来の地球フォーラム]

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論し、講演と対話型パネルディスカッションを通じて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。本年は2月2日（土）に、東京大学安田講堂にて、「第3回イオン未来の地球フォーラム」を実施しました。



第3回イオン未来の地球フォーラム（東京大学）

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。

2018年度は、「熱帯雨林からの贈りもの」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）の9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日～5日の期間、マレーシアクアラルンプールで開催しました。



第7回ASEP開講式（マラヤ大学内）